

道北地域の景気の基調判断を据え置きました

皆さん、いつもこのサイトをご覧いただき、ありがとうございます。

さて、11月10日に公表しました「[金融経済概況（道北地域）](#)」では、道北地域の景気の基調判断を「低迷しているものの、持ち直しの動きもみられる」として、上方修正した先月の表現を据え置きました。前月のキーワードが、低迷している中での「持ち直し」でしたので、当月もそうした傾向が続いているということです。

1. 公共投資が大幅に伸びています。これは本年度の補正予算で上積みされた分を含んでいますので、一時凍結を打ち出している現政権下でどこまで持続するかはわかりませんが、地元経済としては取りあえず一息つける材料でしょう。但し、先行きならびに来年度分については過度な期待は禁物だと思います。
2. 個人消費では、エコカー減税や買替え補助金の効果もあり、自動車販売の増加が続いています。また、薄型テレビの販売も好調です。
3. 旭川市の非居住用建築確認申請床面積が8割強増加し、設備投資は低迷の中でも、そろそろ下げ止まりないし持ち直しが期待できそうな兆候です。ただ、これが持続的な動きと言えるかどうかについては、もう少々時間が必要だと考えています。12月短観結果なども踏まえ、見極めていきたいと思います。
4. 前月同様、雇用情勢が厳しい状況であることは変わりありませんが、このところ若干変化の兆しが窺われます。前年との対比ではまだ低いのですが、有効求人倍率が、ここ数カ月緩やかな持ち直しに転じてきています。
5. 緊急保証制度の効果もあり、企業倒産が、件数、負債総額共に減少しています。

平成 21 年 11 月 10 日

尾家 啓之